

8月1、2日 9月6~10日・ISPSハンダマッチプレー選手権

半田「ゴルフの原点」

谷原、藤本メラメラ燃える



海外での成果を出す
谷原秀人プロ「(マッチプレーの戦い方は)最終的には体力とメンタルが重要。(海外の試合でそれらを)かなり鍛えられた。その成果をISPSハンダマッチプレー選手権で出せたらと思っています」(ISPS専属契約プロ)



決勝まで行きたい
藤本佳則プロ「半田会長にはいつも気にかけてもらっており、とてもありがたいです。いい状態で試合に臨み、決勝まで行きたい。(国内最高賞金が話題になっているが、それよりも試合に)勝つことが重要」(ISPS専属契約プロ)



▲▲ 左より谷原秀人ISPS専属契約プロ、半田晴久ISPS会長、大西久光JGTO副会長、藤本佳則ISPS専属契約プロ【下】マッチプレーを話題にして記念写真を撮る半田晴久会長(左)、藤本佳則プロ(右)、谷原秀人プロ(真ん中)



2017年ジャパンゴルフツアータナメント「ISPSハンダマッチプレー選手権」(主催・一般社団法人国際スポーツ振興協会)の記者発表会が6月21日、東京都港区赤坂のANAインターコンチネンタル東京で行われた。競技は8月1日、2日、9月6日、10日の7日間、千葉県市原市の浜野ゴルフクラブで開催される。マッチプレーとしては、14年ぶりのツアー競技であり、国内最高賞金(賞金総額2億1000万円、優勝賞金500万円)をめぐり、104選手による、全106マッチが繰り広げられる。



ISPSの半田晴久会長が最初に口にしたのは「マッチプレーの灯を絶やしたくなかった。マッチプレーはゴルフの原点。メンタルも勝負強さも鍛えてくれる。若いゴルファーにぜひ経験してもらいたい。」記者発表会にはISPS専属契約プロの谷原秀人も同席した。半田会長は「海外の活躍、涙が出るほど感激した」

市原・浜野ゴルフクラブで開催

ISPSハンダマッチプレー選手権 大会要項

- 【大会日程】8月1日(火)1日、2日(水)2日、9月6日(水)3日、10日(木)4日、7日(日)5日、9日(土)6日、10日(日)7日
- 【出場選手】104名(シード8名、11回戦出場者96名)
- 【賞金】賞金総額2億1000万円、優勝賞金500万円
- 【テレビ放送】2017年10月10日(日)優勝決定戦・3位決定戦
- 【開催会場】浜野ゴルフクラブ(千葉県市原市)
- 【競技規則】マッチプレー方式
- 【ネットライブ中継】9月9日準決勝、10日決勝を「FRESH」でライブ配信予定
- 【チケット】▽前売券 5枚づつ

つり各日共通6000円▽当日券 各日2000円。18歳以下無料(大人同伴の場合)。チケットは3回戦より有効

【大会事務局】☎03・68890087(株)ダンロップスポーツエンタープライズ内。土曜、日曜、祝日除く

【主催】一般社団法人国際スポーツ振興協会(ISPS)

【共催】一般社団法人日本ゴルフツアータナメント機構(JGTO)



「日本のブラインドゴルフの父」
半田晴久会長は「マッチプレーはゴルフの原点」という

本代表になった。ISPSは、目の不自由な人がゴルフを楽しむための活動として、2003年から「ISPSハンダマッチプレー選手権」を開催している。半田会長は「ゴルフの原点」として、この大会を毎年数多く開催し、世界的なゴルフ支援を展開している。

本代表になった。ISPSは、目の不自由な人がゴルフを楽しむための活動として、2003年から「ISPSハンダマッチプレー選手権」を開催している。半田会長は「ゴルフの原点」として、この大会を毎年数多く開催し、世界的なゴルフ支援を展開している。

欧州、米国など世界的なゴルフ支援
ISPSのキャッチフレーズは「チャリティを進化させ、スポーツの力で社会をより良く」である。ゴルフは年間試合以上にスポンサー、昨年開催されたISPSハンダ・ワールドカップ・オープン・ゴルフでは、松山英樹と石川遼が活躍した。

本代表になった。ISPSは、目の不自由な人がゴルフを楽しむための活動として、2003年から「ISPSハンダマッチプレー選手権」を開催している。半田会長は「ゴルフの原点」として、この大会を毎年数多く開催し、世界的なゴルフ支援を展開している。

2016年開幕戦から2017年日本ゴルフツアータナメントまでの国内賞金により出場資格を付与。1、2回戦開催週と同週に開催されるWGCブリヂストンレディス選手権(8名)の出場者を含む上位8名は3回戦から出場(1、2回戦をシード)とした。

賞金は国内最高(賞金総額2億1000万円、優勝賞金500万円)。半田晴久会長は「将来はヨーロッパツアーと同額の3億円にしたり、ヨーロッパから優秀な選手が参加したくなる大会でありたい」という。今年もチャリティは継続される。地域のスポーツ振興を目的としたチャリティイベは、日本ゴルフ協会への選手育成費用、日本ブラインドゴルフ協会への活動資金、日本ゴルフツアー機構にはジュニア育成費用としてのチャリティが行われる。また、日本高球ゴルフ連盟にも活動支援が行われるなど、大会を通じて幅広いスポーツにもゴルフの発展に貢献する。